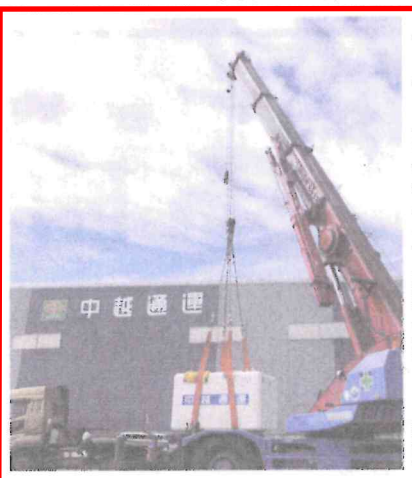
TBA・機械工具版
電話03(6667)1037
FAX03(6667)1041

安全と効率化実現

コンボルト式自家用給油所導入

中越通運

【新潟】中越通運（本社新潟市・中山和映社長）は、これまで6拠点で地下タンク式自家用給油所を運用してきたが、直近3年間で新たに4拠点にコンボルト・ジャパン（本社沖縄県うるま市・島袋修社長）が提案する防油堤一体型屋外貯蔵タンク「コンボルトタンク」を採用した、コンボルト式地上型自家用給油所を導入してきた。今年5月には長岡営業所（新潟県長岡市）の自家用給油施設の地下タンク（10㌔）が埋設40年目を間近に控えたことを契機に、容量を2倍の20㌔にしてコンボルトタンクに入れ替え、既設給油施設と接続するという新たな取り組みにも成功した。これにより合計10拠点のうち5拠点がコンボルト式自家用給油所となった。



掘削工事が不要

導入のスピードを速める背景には、コンボルトタンクの特徴が大いに生きている。火災や地震、水害や事故に抜群の強さを発揮する安全性が大きな要因となっている。

とくに同社は柏崎営業所が中越沖地震で被災、給油施設が損壊したことで、15年もの間、ほかの営業所に給油に出向いていた経験がある。そのため、なにより安全面とBCP（事業継続計画）への意識がコンボルトタンク導入の後押しとなっている。

また自主点検での管理が可能で、安心と安全が誰にでも可視化できることも大きな魅力となっている。業者に依頼するコストが削減可能になるからだ。

さらに大がかりな掘削工事が不要で現場の工期が地下タンク式よりも大幅に短縮が可能となることなど、建設コスト削減の部分もメリットの一つとなっている。

「働き方改革」が進むなかで、安全と安心はもちろん、コストの削減と事業の効率化、そしてBCP対策は現在の物流業界には必須のこととなっている。

そのなかで必要な設備投資を実施していかなくてはならないが、地下タンクだけでなく新たな選択肢の一つにコンボルトタンクが名乗りを上げている。こうした選択肢の広がりは運送事業者にとって、大きな魅力とメリットとなっている。

給油作業する様子

来店査定キャンペで送客拡大図る　カーセブン

カーセブンデジフィールドは「夏の爽快キャンペーン」を9月末まで展開中だ。来店査定で査定額1万円以上の場合に汗拭きシートや日焼け止めクリーム、メントール配合入浴剤といった日用品をプレゼントする。カーセブンFC（フランチャイズ）加盟店への送客拡大施策の一つ。

特典適用は1組同一車両1回限り。キャンペ。特設サイトでは①契約金の半額を当日中に前払い②いかなる場合でも契約後の減額一切なし③キャンセルは7日間電話1本で可能―といった顧客が安心して来店査定できる買取姿勢を訴求している。

過去最高中間期売上高

通期業績予想を上方修正

TOYO TIRE

清水隆史社長

TOYO TIREは、2024年12月期第2四半期累計実績（1～6月）を発表した。

売上高2735億100万円（103・6%）営業利益475億6900万円（178・3%）経常利益597億7000万円（154・2%）中間純利益420億500万円（144・2%）でいずれも過去最高。決算説明会で清水隆史代表取締役社長&CEOは「重点商品の販売促進に加えて、為替円安や海上輸送賃など外部環境も追い風になった」と強調した。

タイヤ事業は、売上高2512億9100万円（103・6%）営業利益468億9800万円（171・2%）北米市場での市販用タイヤはアジアを中心とした安価品の流入があり販売量は前年度を下回ったが、オープンカントリーAT／Ⅲなど重点商品の堅調な需要と円安基調により増収した。国内市場では、昨年の値上げ前仮需からの反動減があり、販売量は前年度を大きく下回ったが、新商品のプロクセスCF3など付加価値商品への販売シフトで収益性の改善に努めた。また欧米市場は紅海情勢悪化による物流遅延の影響などもあり販売量が減少したが、値上げや商品ミックス改善で対応した。

自動車部品事業は一部自動車メーカーの生産減影響を受け、売上高222億900万円（96・9%）と前年度を下回るも、受注ミックスの改善などにより営業利益6億6000万円（前年同期は営業損失7億2800万円）となった。

第2四半期までの状況に鑑み、2024年度通期業績予想は、前回発表予想から増益で修正。営業利益を810億円（従来予想は780億円）とした。

横浜ゴム

サプライヤー交流イベント開催

持続可能な天然ゴム調達へ

横浜ゴムは、天然ゴム調達の子会社であるスミトモラバー・シンガポールと共同で、天然ゴムサプライヤーとの交流と問題意識共有へのイベント「サプライヤーズデー」を開催した。

天然ゴムの持続可能な調達を目指す活動の一環。サプライヤーとのコミュニケーション強化へ2016年から実施し、2018年・2022年に続き今回で4回目となった。2018年以来6年ぶりに対面での開催となったシンガポールでのイベントには中国、グアテマラ、インドネシア、コートジボワール、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナムの8カ国から天然ゴムの生産者や商社など計30社・61人が参加した。

横浜ゴムのマテリアリティ（重要課題）見直しに合わせて進めている持続可能な天然ゴム調達方針の改定内容や、持続可能な調達活動の取り組みなどを説明し、サプライヤーと情報共有した。

山石昌孝代表取締役会長兼CEOと清宮眞二代表取締役社長兼COOからの感謝メッセージの動画放映や、サプライヤー表彰などを行い、パートナーシップの強化を図った。

サプライヤー表彰トロフィー

ASワンプラ7月実績

出品在庫精査の徹底呼びかけ

オートサーバー

オートサーバーは中古車小売支援サイト「ASNET（エーエスネット）」の店舗在庫共有サービス「ASワンプラ」7月実績から、乗用車、軽自動車、バントラ（バン・トラック）成約ランキングをまとめた＝別表参照。

型式別ランキングは1位アクア、2位プリウス、3位ヴォクシー。軽自動車ランキングは1位タント、2位デイズルークス、3位N-BOX。

型式ランキング

順位	型式	参考車名	平均距離(千Km)
1位	DAA-NHP10	アクア	61.1
2位	DAA-ZVW30	プリウス	62.6
3位	ZRR80W	ヴォクシー	52.3

軽自動車ランキング

順位	型式	参考車名	平均距離(千Km)
1位	DBA-LA600S	タント	51.9
2位	DBA-B21A	デイズルークス	54.0
3位	DBA-JF1	N-BOX	68.8
4位	DAA-MR41S	ハスラー	80.6

エレメントクリーナー提案拡大

自動でフィルター清掃

バンザイ

バンザイは「オートマチックエレメントクリーナー（型式＝AEC－1000B）」を整備工場ルートで提案拡大する。

フィルターを回せながら内側おけ、フィルターの清掃ができるエトクリーナー。フター清掃は自動れるため、清掃中

積アップとブロック剛性向上を両立。ブロックによって冬の輸送ビジネスを支えることで、
けリュック「コンディショニングバックパ
ムのほか、熱中症対策ツールの「アイスタッ
ッチする多彩なラアップをアピー